



△左から『戦国無双』に登場するキャラクターの大谷吉継、石田三成、真田幸村、真田信之、加藤清正
(本紙表紙のイラスト中のキャラクターは左から真田幸村、真田信之)

期間中ニ行ウ 催シヲ紹介

当展の期間中に行うさまざまな催しを紹介します。

詳細は、備前長船刀剣博物館のホームページをご覧ください。

- 【甲冑着付け体験】(左写真参照)
8月24日(日) 午前10時～午後3時(予約不要・時間内先着順)
- 【古式鍛錬公開】(左下写真参照)
8月10日(日)、9月14日(日)
午前11時～正午、午後2～3時(予約不要)



【戦国小刀製作講座】

- 8月2日(土)、16日(土)、9月6日(土) 午前10時～午後4時(要予約、定員10名、受講料2,000円、材料費10,000円)
- 【日本刀初級者講座】
8月10日(日) 午後1～3時(要予約、定員20名)

【ポランテアガイドによる案内】

随時(1週間前までに予約してください。約1時間のご案内です。)

【銘切プレートの実演と販売】

土・日曜日、祝日のみ(先着順、各日100枚、1枚1,000円)

【グッズ販売】

随時(オリジナルグッズ、関連グッズ)

日本刀ノ文化ヲ 若者ニ伝承スル

名将と呼ばれる人々は名刀を所持し、意匠を凝らした甲冑に身を包み、技術の粋を結集した武器・武具で己の生き様を内外に知らしめてきました。

特に日本の戦国時代を生き抜いた武将たちは、多くの遺品や魅力的なエピソードが相乗効果となって、ファンを増やし続け、「歴史」と呼ばれる歴史好きの女性も急増しているといわれています。

備前長船刀剣博物館では、戦国時代を題材にした、若者に人気のゲームである『戦国無双』とのコラボレーション企画として、7月12日(土)から9月15日(月・祝)まで特別展『戦国無双の刀剣展』を開催しています。

『戦国無双』シリーズが10周年を迎え、新作ゲーム、マンガやアニメが公開される中、より多くの若者たちが、本物の日本刀や甲冑などに興味を持つ「きっかけ」となって、さらなる保存伝承へとつながることを期待しています。

新タニ作ラレタ 九ツノ武器武具

当展では、現代の刀匠や職人たちが新しく制作した『戦国無双』に登場する武将が使う武器や武具9点(左表参照)を展示します。

また、織田信長や徳川家康などの戦国武将にまつわる古い刀剣や甲冑、火縄銃、陣笠、軍配、采配、陣羽織、馬具、床几、忍者道具、火事装束などを展示します。

戦国時代に使われた品と、『戦国無双』に登場し新しく制作された品とを見比べて、歴史や伝統工芸について学ぶことができる絶好の機会です。ぜひご来館ください。

現代刀匠らが制作した『戦国無双』に登場する武器・武具(かっこ内は『戦国無双4』での名称)

武将	武器・武具名
真田幸村	十文字槍
前田慶次	単駒型鉾(二又矛)
大谷吉継	采配(仕込采配)
森蘭丸	大太刀(長刀)
石田三成	鉄扇
加藤清正	片鎌十文字槍(片鎌槍)
本多忠勝	大笹穂槍(大槍・蜻蛉切)
真田信之	直刀(双刃刀)
綾御前	大薙刀(薙刀)

新作展示品ノ ヒトツヲ紹介

直槍の身の左右に枝が付いた形のを十文字槍と呼んでいます。槍の本来の機能は突くことですが、十文字槍にはそれに加えて、受ける、引く、引っ掛ける機能が加味されています。十文字槍がいつから作られ始めたかは分かっていません。妖刀で有名な村正作の十文字槍が存在することから、室町時代中期には作られていたことが分かります。戦国時代には、十文字槍は全盛期を迎えたようで、さまざまな合戦で使用されています。真田幸村が大坂夏の陣で使用したと伝えられる十文字槍も残されています。十文字槍の製作技法は伝わっていません。今回の戦国無双の刀剣展への出品のために製作技法の研究会が開催され、記録動画が作られました。記録された製作方法は数ある方法のうちの一つです。製作を担当した刀匠から、製作後に違うアイデアが提起され今後の研究が待たれます。



真田幸村 十文字槍 ©tousyoukai

瀬戸内市ヲ皮切 リニ国内ヲ巡回

当館での展示終了後、当展は国内を巡回する予定です。

この機会に、ぜひ当館をご覧ください。

問 備前長船刀剣博物館
☎ 0869・66・7767
HP <http://www.city.setouchi.lg.jp/~osa-token/>